

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目の や 等）から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
.理念に基づく運営	22
1.理念の共有	3
2.地域との支えあい	3
3.理念を実践するための制度の理解と活用	5
4.理念を実践するための体制	7
5.人材の育成と支援	4
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1.一人ひとりの把握	3
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3.多機能性を活かした柔軟な支援	1
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1.その人らしい暮らしの支援	30
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
.サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

【取り組みの事実】

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

【取り組んでいきたい項目】

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

【取り組んでいきたい内容】

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】（アウトカム項目の後にある欄です）

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（1から 87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（88から 100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム せせらぎ
（ユニット名）	（せせらぎ棟）
所在地 （県・市町村名）	秋田県能代市落合字下谷地251番地6
記入者名 （管理者）	責任者 佐藤 弘
記入日	平成21年11月27日

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1.理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>企業理念を玄関及びホールに掲げ、スタッフが常に意識できるよう心掛けている。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎月1回運営者と管理者等会議を開催し、理念を確認するとともに運営やサービス内容を話し合っている。また、各棟職員会議に管理者等会議の内容を報告し、話し合いを持っている。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議及び家族会の開催時、自治会総会への職員の出席、自治会行事へ利用者と共に積極的に参加し取り組んでいる。</p>	
2.地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>自治会の一員として気軽に声かけを実践している。また、老人クラブ会員の訪問や子ども七夕の休憩所として利用され、ハローウインの訪問も受けている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>自治会に加入しており、総会への出席や盆踊り、自治会清掃活動、老人クラブとの交流など地元の人々と利用者と共に積極的に交流している。</p>	

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>自治会長及び老人クラブ会長、副会長等との交流の機会を利用し話し合いを持っている。</p>		
3.理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価及び外部評価を実施する意義を運営者、管理者、職員は良く理解しており、評価を活かすため会議等を開催し、改善が必要な場合は取り組んでいる。</p>		
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議では、利用者やサービス、評価への検討や取り組み状況、職員の研修等について報告し意見を伺い、サービス向上に努めている。</p>		
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者や運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議に市担当者が1名委員として参加いただいている。市担当者の施設訪問はないが、事業所の相談事項等あった場合は、出来る限り担当課に直接訪れ、指導を受けながらサービスの向上に努めている。</p>		
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>地域権利擁護事業や成年後見制度については、管理者や職員はその必要性を認識しているが、利用者や家族は制度等の関心が薄い状況にあり、必要な人には活用できるよう支援することができる。</p>		
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止関連法については、管理者等会議、職員会議において話す機会があり、今後とも、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努める。</p>		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の担当者は決めているが、職員全員が利用者と馴染みとなり、職員は利用者全員に関わりを持ち支援を受けられるようにしている。異動や離職を必要最小限に抑える努力をしており、代わる場合は利用者へのダメージを防ぐ努力をしている。</p>		
5.人材の育成と支援				
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員を段階に応じて育成するため、毎年計画を立て、事業所内外の研修に参加させるよう努めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>能代山本グループホーム協会に加入し、運営者自身や管理者及び職員が総会や研修に参加し交流する機会を持ち、ネットワークはできている。また、県北介護支援専門員協会にも加入し、これも総会や研修を通して交流し、サービスの質を向上させるよう努めている。</p>		
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>月1回の職員会議に話し合われた内容を管理者等会議の議題として取り上げている。会議の結果を職員に話し、その内容をもとにストレスを軽減するための工夫や環境づくりをしている。</p>		
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握している。職員等には感謝の気持ちを伝え、各自が向上心を持って働けるように研修への参加に努めている。</p>		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>利用者は勿論のこと、家族とも連絡を取り合いながら、利用者及び家族の要望を最大限生かすよう管理者や職員と話し合いを持ちながら、利用者との信頼関係を構築するよう努めている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>近くの家族は施設に来る機会があり、現状報告をするとともに相談も受け付けて話し合っている。遠方の家族には電話連絡や手紙で現況を報告している。相談等があった場合は、随時受け付けるよう努めている。</p>	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時は、介護保険事業として色々なサービスがあることを、自宅あるいはホームにて本人及び家族と他のサービスについても話し合うように努めている。</p>	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するため、入所前にホームを必ず見てもらい、重要事項説明書により内容を説明している。利用者や家族が納得のうえ入所していただき、職員が他の入居者との中に入り場の雰囲気徐々に馴染めるよう、家族等とも連絡を取りながら工夫している。</p>	
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者が出来る役割を見つけて、声かけを多くし、完成した場合は労いの言葉をかけて反応を見ながら対応している。また、昔話に耳を傾けたり、懐かしい歌一緒に歌ったり、役割を職員と一緒にやり、お互いに誉め合いながら支えあう関係を築いている。</p>	

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族等のホームへの訪問に制限を設けておらず、行事等への参加を促している。電話等で利用者の近況報告しており、ホームと一緒に利用者を支える関係を築くよう努めている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	常に利用者と家族と連絡を取り合い、より良い関係が築いていけるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ドライブや外出、理容時には馴染みの店に寄ったり、親類等との食事会には送迎をしている。また、信頼している医師に受診しており、大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係を把握しており、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合いを持つよう職員が中に入ったりしながら関わりをもち、支え合えるように努めている。		
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用（契約）が終了しても、介護等相談に応じており、関係を断ち切らないようにしている		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>今までの生活リズムを把握し、集団生活の中で利用者本位になるよう、サービスの提供に努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>これまでの暮らしの把握については、本人及び家族から聴き取り、生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>暮らしの現状把握は介護サービスを提供するうえで大切なことであり、把握するよう努めている。</p>	
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者本人や家族から要望を聞き、カンファレンス時に話し合われた課題に対する意見やアイデアを参考にしながら、モニタリングを行い介護計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>利用者の状況に応じて計画期間を定め、カンファレンスやモニタリングを行い見直しを行っている。また、介護区分変更が必要となった場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果は、個別記録に記入している。これらを基に評価を行い、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3.多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当施設は多機能ではないが、利用者や家族の状況、その時々々の要望に応ずるように努めている。		
4.本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	利用者の意向を尊重しながら、ボランティアの受け入れや消防訓練、学校の課外授業、介護研修生の受け入れを行っている。また、医療機関とは良好な関係を築きながら支援している。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人の意向や必要性に応じて、他の介護施設等と連絡を取りながら、本人及び家族の相談に応じ他のサービス情報の提供に努めている。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	利用者の意向や必要性に応じるため、ホームとしては準備ができていますが、地域包括支援センターと共同して行う権利擁護等の事例は発生していない。しかし、介護支援専門員との意見交換会を定期的開催している。		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医、かかりつけ歯科医、か かりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医、かかりつけ 歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ 薬局等と事業所の関係は良好で、利用者及び家族 等の納得を得ており、適切な医療を受けられ よう支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を 築きながら、職員が相談したり、利用者 が認知症に関する診断や治療を受けられ よう支援している	利用者及びホームと主治医は良好な関係を築い ており、職員の相談にも応じていただき、認知症 に関する診断や治療を受けられるよう努めてい る。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地 域の看護職と気軽に相談しながら、日常 の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護ステーションと医療連携体制を築いて おり、ホームへの訪問により看護職と気軽に相談 しながら、日常の健康管理や医療活用の支援を 行っている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせ るよう、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や 相談に努めている。あるいは、そうした 場合に備えて連携している	利用者が入院した時は、病院関係者及び家族と 連絡を密にし、情報交換や相談に応じており、安 心して治療できるように努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、 早い段階から利用者や家族等と話し合っている。 また、かかりつけ医等とは連携が取れており、職 員を含め全員で方針を共有している。		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	事業所の「できること・できないこと」の見極めは大切なことであり、かかりつけ医や家族と連携を取ながら、それらが生じた場合は早目の検討を行うよう努めている。		
49 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	利用者が別の居所へ移り住む際には、利用者及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、支援するように努めている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1.その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしておらず、掲示やパンフに記載してプライバシーの確保は徹底されている。		
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者がその人らしい思いや希望を表せるように働きかけ、共同生活の中で納得しながら暮らせるように支援をしている		
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースを大切に、好きな役割や希望に沿い、無理強いせずその日一日を有意義に過ごせるよう支援している。		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	利用者の希望や家族の意見を聞きながら、その人らしい身だしなみやおしゃれ、理容、美容等については家族とも連絡を取りながら支援している。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の出来る範囲内で役割として職員と一緒に調理や準備、後片付けをしている。	
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人が望む食事や飲み物、おやつ等、好みのものを利用者の状況に合わせて提供し、日常的に楽しめるよう支援している。	
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	気持ちよく排泄できるようセンナ茶を取り入れたりしながら便秘防止に努めている。出来る限りオムツ使用は避けているが、必要な場合は尊厳を傷つけずにトイレ誘導を促し、排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しむように支援している	利用者の体調や希望、状態にあわせて入浴を楽しむように支援している。	

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や日々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう、かかりつけ医とも相談しながら支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者ができる範囲内で役割を持っていただき、生活歴や経験を生かせるように支援をしている。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者がお金を持つことの大切さを理解していると思うが、家族の希望で利用者には持たせていない。預かり金の中から小額のお金を所持し、嗜好品を買う機会を与え職員同伴の元で支援している。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候にもよるが散歩やドライブ、他施設訪問、買い物等の購入に誘い、戸外に出かけられるよう支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年間行事に合わせて、花見、たんぼ会、遠足、運動会や不定期ではあるが演劇鑑賞等、利用者が普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり支援している		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族等からの電話の取次ぎや利用者が電話をしたい時は、希望に沿い支援をしている。手紙は家族からはホーム宛のものが多く、利用者が希望することは、今のところ皆無である。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、利用者の居室において居心地よく過ごせるようにしている。また、ホームとしてお茶やお菓子を提供している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、事業所としては、身体拘束マニュアルにより行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者のプライバシーに配慮しながら、日中は常に様子を見て把握し安全に配慮している。夜間は巡視やトイレ誘導を行い、利用者の安全と把握に努めている。		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>薬やはさみ等金属類は一括してホームで管理している。特別に注意の必要な物品は利用者の居室は入居に持ち込んでおらず、居室清掃時や衣類の交換時に利用者と一緒に確認しており、危険を防ぐよう努めている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>事故防止指針・事故防止により取り組んでおり、救命救急講習へ参加や防災訓練を行ない、事故等の防止に努めている。また、ヒヤリハットを活用してミーティングを行い事故防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時に備え、緊急連絡網や救急車の要請手順を作っている。職員は応急手当や初期対応について、話し合いや実践訓練を不定期であるが行っている。</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>災害等の避難訓練は防火訓練時に実施し、避難場所は事業所の関連敷地が広く確保され、地域住民の一員として協力を得られるよう努めている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて、入居当初や訪問時、電話で家族等に説明し、対応策について話し合い、支援している。</p>		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)


項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎日定期的にバイタルチェックを行い、利用者一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>職員は、利用者一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について、医師の説明や薬局の説明書により理解に努めており、活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>職員は、利用者の便秘原因や及ぼす影響を理解し、予防のため食事の工夫や散歩、歩行訓練、水分補給、センナ茶の活用、身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>口腔内の清潔保持のため、毎食後声かけにより、利用者一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援に努めている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>利用者一人ひとりが食べる量や栄養バランス、カロリー、水分量が確保されているか把握し、利用者の状態や力量、習慣に応じた支援をしている。</p>	

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、予防や対応の取り組み実行している。インフルエンザ予防接種については本人及び家族の了解の下、利用者全員が接種している。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の消毒を行い衛生管理を行い、生物等は日々の買い物により新鮮で安全な食材を使用し、賞味期限等に注意をしながら使用と管理に努めている		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の美観に努めている	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の美観に努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日清掃や消毒を清潔にし、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、七夕飾りや十五夜、門松等の季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるよう努めている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中には、利用者同士が思い思いに過ごせるようにソファがある。また、食堂の椅子やテーブルを自由に使用して、居場所の工夫をしている。		

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は基準より広めに作られ、家族が訪問した場合でも居室で語り合うことができる。使い慣れたものや好みのものを活かせるようにしているが、利用者及び家族等が事業所への持ち込みは少ない状態である。利用者が居心地よく過ごせるように努めている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	フローアや食堂等及び居室には換気扇を付けており、気になるにおいや空気のおどみがないように努めている。温度調節は利用者の状況に応じてこまめに行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーとなっており、廊下、風呂、トイレには手すりを付け、利用者一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した歩行や生活が送れるように工夫している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレが分らない利用者のためには、名前等表示し、混乱や失敗を減少するように努め、声かけや見守りしながら、自立して暮らせるように工夫している。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の外周りやベランダ、庭、東屋を利用者が楽しんだり、くつろげるように活かしている。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

.サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

グループホームせせらぎ(せせらぎ棟)

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

当事業所は地域の一員として地域自治会に加入し、総会への出席や清掃活動、盆踊り、回覧板の取次ぎ等の事業に参加している。また、地域老人クラブとの交流もあり、運営推進会議役員もお願いしており、地元の人々と利用者は積極的に交流している。

その他、子ども七夕の休憩所として利用され、ハローウインの訪問も受け入れ、地元の人々と積極的に交流を図っている。

当事業所と関連事業所による企画として、能代カラオケ同好会や合同運動会を毎年実施し、利用者や家族、ボランティア、スタッフなど多数の方々と交流できる一大イベントとして定着して利用者はじめ家族の皆さんは楽しみにしていたが、今年度は新型インフルエンザ流行のため、秋のカラオケと合同運動会を中止した。